

5年目スキルアップ研修モデル授業と研究授業

モデル授業を引き受けてくださった先生方、ご協力ありがとうございました。

モデルの授業参観では、5年目の先生方から次のような感想が出ました。

- ・普段、他の先生の授業を参観に行くことがないので、とても良い経験になりました。新しい学びがたくさんありました。学習規律や教師の行動、単元構成、教師の支援の仕方やタイミング、そして男女での関わり方など。これからの授業に活かしたいと思います。
- ・自分の授業と比べながら参観しました。5年目として自分がやっていることが間違っていないことも分かりましたが、モデルの先生の細かなポイントや意識されていることを聞いたのは、とても貴重な時間になりました。
- ・導入の工夫や児童一人ひとりを大切にする授業づくりがとても大切だということを改めて理解しました。児童に対する言葉かけ一つひとつを意識して取り組んで行きたいと思いました。
- ・ペアワークやゲームをする際に、条件を付ける、クリアするなど達成感を味わえる授業づくりをしていかないといけないと改めて感じました。
- ・細かな指示や、問題との出合わせ方などいいなと思うところがたくさんあったので、これからどんどん真似していきたいです。
- ・生活単元の授業のアイデアをたくさん教えていただき、すぐに実践したいと思いました。
- ・問題の解答を子どもに説明させることで、教師が話すよりも子どもの集中力が上がっていたので参考にしたいと思った。

モデル教員の 授業の様子 (一部)



学習規律、単元計画、課題設定、導入の仕方、発問、支援の仕方、板書計画協働活動、個別支援、表現活動、発表のさせ方、振り返り、ICT活用等多くを学ばせていただきました。

また、研究授業の振り返りや同期の参観の感想では、以下のような言葉が聞かれました。(抜粋)

①強化ポイントは、目指す子どもの姿(めあて)を達成するのに有効でしたか。

- ・【導入】クラス全体に投げかけたときに、全員が考えられているかと問うとそうではなかった。
ホワイトボードで視覚的に課題や展開を提示し、既習事項と比較しながら進めることができた。写真やイラストがあるとなお分かりやすかった。
既習内容を確認することで、本時のめあてを意識し活動していた。個別支援を必要とする子どもに導入時に発言の機会を与えることで集中して取り組ませることができた。
- ・【発問】本時の目標に合った発問を心掛けた。
- ・【話す 具体物をきっかけに話すことができた。
書く】既習事項を押さえたり、用語を使ったりすることで、安心感をもって、話し合いができる。
どこに焦点を当てればよいかを明確に示すことで、意識した表現につながる。
自分の成長が目に見えて分かる自信につながり、表現に意欲を持って取り組める。
単元の流れが提示がされており、今自分たちは何をゴールとして学習をしているのかがわかりやすく、またそれに向かってどのように力をつけていけばいいのかが明確化されていて、子どもたちが安心して表現している姿があった。
全教科での表現活動に取り組んでいくことが大切だと思った。
- ・【ICT】季節感を示している作品をロイロノートで、共通理解させればよかった。
これまでの作品や画像検索で、参考作品を探し自らの制作に生かそうとしていた。
ICTを提出や評価の利用だけにならぬよう、学びが深まるための活用を考えた。
- ・【個に応じた指導】個別の目標設定したことで、活動予想し支援や手立てを考えることができた。

②本時で「働かせたい見方・考え方」を子どもはできていましたか。

- ・自分と見本の動きの違いをよく見て考えていたと思うが、具体的に言語化するところに難しさを感じていたと思う。
- ・式と図で示したものを言葉で説明することに難しさを感じる子どもがいた。キーワードや例を示すとよかった。
- ・選択する場面で、自分が解きやすい方法で解けるかということ考えられていたと思う。
- ・タブレットを活用することで、主体的に活動していたが、互いにアドバイスするための視点を途中で提示できるとよかった。
- ・解き方だけを身につけさせるのではなく、考えさせる場面を設けるとよかった。
- ・シールを貼るという操作活動で、底面がどこかを視覚的にわかりやすくすることができた。
- ・グループで発表し合う前に、質問したかったけれどもどのように質問すればよかったかわからない生徒のために、どのような質問をしたかの確認をしてもいいのかと思った。話し合い活動は有意義である。

③目指す子どもの姿(めあて)を達成するために、有効だったのは(強化ポイント以外)何ですか。

- ・友だちとの交流で、意見を聞くことは有効であった。それを、どんな視点で、考えているのかなどクラス全体で共有できると更によかったと思う。
- ・実際に自分と見本の動きの違いを、ICTを活用して見ることができ、気づきがあったと思う。
- ・子ども同士で学び合う場を設定することで、互いに確認したり、教え合ったりしながら、多く問題を解くことができていた。
- ・考える上での基礎・基本の知識・技能が大切だと思った。
- ・単元を通してつきたい力を描けていること、「分からない」と伝えられる学級経営とその方策をこれからも意識していきたい。
- ・既習内容の掲示や具体物での操作活動は有効であった。
- ・リアクションカードの活用や班での発表。男女での積極的な協働的な学び。
- ・授業の初めに前回の活動で学習した1日の流れでフレーズを確認することによって、どのように自分の生活を表現すればよいかの見通しが持ちやすかった。
- ・時間が余ってしまったグループへの事前の指示もされていて、何をすればいいのかが明確化され

④その他、気付いたことがあれば書きましょう。

- ・めあてを**子どもから引き出す**工夫を心掛けたい。
- ・**視覚的支援**ができるよう教材研究を行っていきたい。
- ・子どもたちが苦手な言語化をいろいろな教科・場面で機会を設けていきたい。
- ・「ここ」「そこ」などの抽象的な言い方より**記号や数字を使って具体的に話す**ようにしていきたい。
- ・**既習内容を教室内に提示**しておくことで学びの足跡やヒントになる。
- ・導入を丁寧に行うと共に大切な用語を使って話し合い、説明をさせる。
- ・個別最適な学びにおける手立てが重要で、その後に協働的な学びに移ると学びが深まる。
- ・楽しいと思える授業づくりをしたい。

5年目教員の授業の様子



就学前教育講座①

6月29日（月）コミセンきたの

こども園・幼稚園の先生 21 名と小学校の先生 2 名の計 23 名が参加されました。

京都府教育委員会学校教育課幼児教育センター架け橋期コーディネーターの 大橋美智子 先生 にお越しいただき、「学びをつなぐ 架け橋プログラムを踏まえた保育・教育について」という演題でお話いただきました。

時期学習指導要領における基本的な考え方を説明していただいた後に、幼児教育 WG/保育専門員会の取りまとめ（案）より、内容の改善の在り方で以下のキーワードになる点を挙げていただきました。

- ・**0歳からの学びのつながり**
- ・**言葉を用いて考える力の基礎の育成**

また、3 つの視点「**健やかに伸び伸びと育つ**」、「**身近な人と気持ちを通じ合う**」、「**身近なものと関わり完成が育つ**」と、5 つの領域「**表現**」、「**健康**」、「**人間関係**」、「**環境**」、「**言葉**」のねらい・内容を構築した保育を行うことが、「**遊びの深まり**」の**実現による資質・能力の一体的な育成**につながる。そして、それが小学校で育みたい「**知識・技能**」「**素行力・判断力・表現力等**」「**学びに向かう力・人間性等**」につながっていくと話されました。

もちろん、小学校への架け橋期である 5 歳時と 1 年生の連携も大切ですが、園内・小学校内での連携も忘れず行い、子どもたちの育成が太い線として伸ばす必要があることを肝に銘じておきたいところです。そして、それは中学校へと引き継がれていきます。

